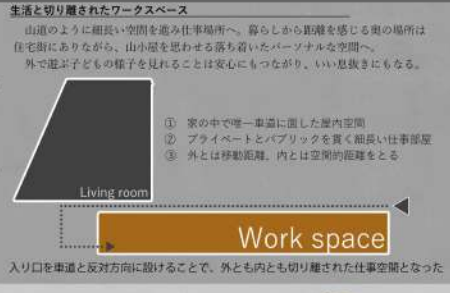


# 山のように住まう



**コンセプト: 古民家よりも田舎らしく山のように自由な秋田暮らし。**  
 プログラマーになって田舎で自由に暮らすといった生活観が理想のように語られる現在、田舎に求められる『自由』の形は現実との乖離が見られるようになった。  
 特に交通の便が悪いこと、サードアレイスを待つことが困難なこと、積雪期間が長いことよって生じる生活の窮乏感は秋田暮らしを考える上では避けては通れない問題である。  
 そこで、田舎暮らしの理想をかえ、不便が豊かさになる住宅を考えた。  
 家の中に個人の自由があり気候による不都合を豊かに感じられるような、住宅街にない山暮らしのような行動の自由と身体的な充実感が得られるような、「山のように暮らす」をかえする住宅を提案する。  
 秋田県民にとって山は日常の風景の一つとして身近なものであり、豊かな遊であり、自由の象徴である。  
 敷地奥に向かって山のように盛り上がったボリュームが、住宅街に山という自由を演出する。



**自由**

秋田暮らしに要求される

- 空間的自由**
  - 戸外空間(庭・バルコニー)の確保
  - 空間の可変性
  - 空間の可動性
- 関係的自由**
  - 個人空間を共有できる
  - 共有空間の確保
- 行動的自由**
  - 車道と歩道の両方
  - 車道に接続された行動領域
  - 移動の心地よさを実現する

林のように配置した九柱と曲線的な構造体によって、開放的だが個人の自由を実現する半屋外空間を設計した。固執的にも身体的にも内にさらない思い描く暮らしを実現するために、パブリックからプライベートへ、奥へと進むにつれて、開放的な空間が演出されている。  
 茶の間は山道の休み茶屋のように、家族が疲れを癒しに集まる場所として機能する。

